

スポーツ・武道実践科学系

氏名

しお かわ かつ ゆき
塩 川 勝 行

講師



主な研究テーマ

□サッカーにおける世界トップレベルのチームのボールポゼッションからの攻撃戦術に関する研究

平成24年度の研究内容とその成果

近年のサッカーでは、攻撃から守備、守備から攻撃の切り替えがより一層早くなり、「攻守の一体化」が言われています。速攻による攻撃の有効性は言うまでもありませんが、特に攻撃から守備への切り替えのスピードは早くなっており、ボールを奪われた前線の選手にも高い守備意識が要求されているため、速攻を行う事自体が難しくなっています。そのためボールを奪った選手も正確に味方にボールをつなぎ、ボールを失わないようにチームで保持しながら、相手チームが素早く形成する強固な守備組織を個人やチームで崩して行く事が必要となります。

しかしながら、育成年代のサッカーで多く見られるのは、ボールを失わずに繋ぐ事が優先され、ボールを繋ぐことが目的になってしまい、「相手ゴールを奪う」ために、ボールを繋ぎながら相手の守備組織の隙を狙っていない、または、攻撃の仕掛けや崩しを理解し考えながらプレーしていないように考えられます。そこで世界のトップレベルの大会であるUEFA EURO 2012

大会で上位に進出したスペイン（優勝）及びドイツ（3位）を中心にボールポゼッションからの攻撃戦術について研究を進めました。

ボールポゼッションからの攻撃に関しては、①つくり：主に相手の守備ブロックの前でボールを動かすこと、②仕掛け：相手の危険なスペースにボールをパスやドリブルで運ぶこと、③崩し：DFラインの裏へのパスやドリブルによる突破、④つめ：ゴールを狙うシュートの4つの段階で表す事が出来ます。その中でもボールを繋ぎながら「ゴールを目指す」ために必要な②仕掛けと③崩しに着目しました。

②仕掛けのパスについては、相手のDFラインとMFラインの間の中央のスペースであるバイタルエリアにどのようにパスを入れるか、またはパスをどのように受けるかが重要になります。そのためにはサイドハーフはサイドでボールを受けるだけでなく、ボール保持者の状況を観ながらFWやサイドバックとの連携を行い、バイタルエリアでタイミングよく前向きでパスを受け取る事が必要となってきます。またサイド

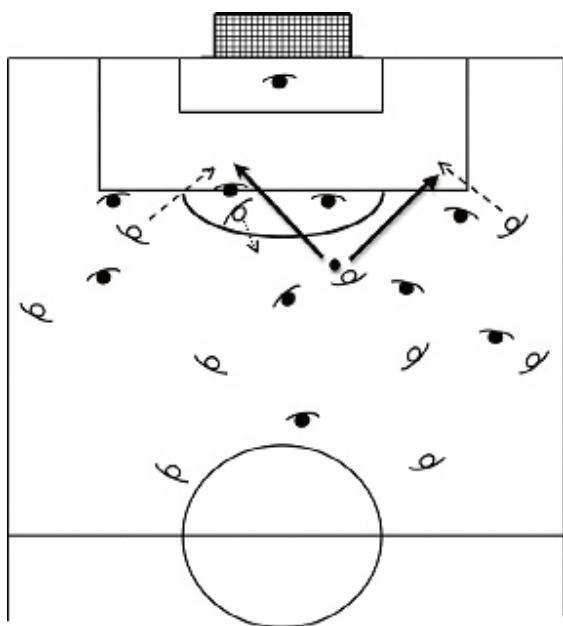
ハーフが中央でボールを受けようと動く事によって出来たサイドのスペースを、サイドバックが相手のプレッシャーを受けずにタイミングよくボールを受ける事が重要となります。

仕掛けを行う為には中央のバイタルエリアと、バイタルエリアを狙う事によって生じたサイドの深いエリアにパスする事が重要で、そのポジションでタイミングよくボールを受ける事と、そのエリアに速く正確にボールを配球出来るセンターバックやボランチのパス能力が重要となります。その能力がないと①つくりから②仕掛けに移行する事が出来ずに、ボールを保持しているだけになります。

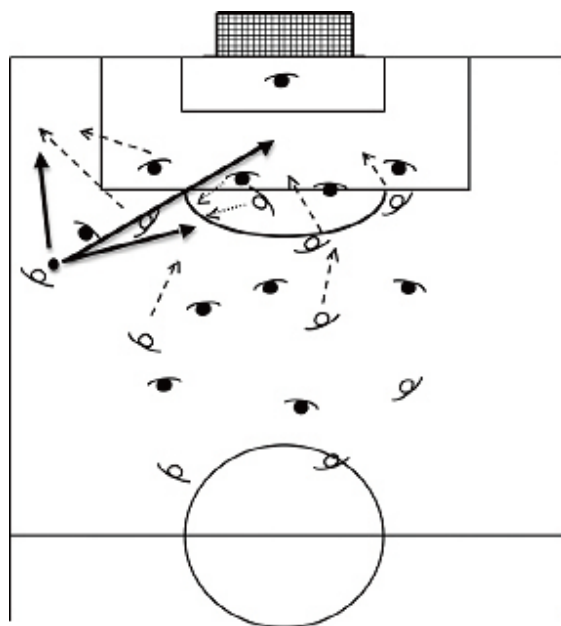
③崩しについても、バイタルエリアを使った中央での崩しとサイドでの崩しの2つに分けられました。中央の崩しでは、バ

イタルエリアで前向きでボールを持った瞬間にFWがボールを受けるために動いたスペースを他の選手が外から中へカットインして、CBの背後やCBとサイドバックの間のスペースでボールを受ける動きが見られました。また、サイドではサイドハーフやFWがサイドの裏のスペースへダイアゴナルランを行い、サイドの深いエリアを狙うとともに、動いて出来たスペース（バイタルエリアやDFとGKの間のスペース）を狙う形が見られました。


いずれにしても、これらのサッカーを行う為には個人の技術・戦術の高さが必要なのは言うまでもありませんが、相手の守備組織が堅固なほど相手の隙をつくためのタイミングの良い動き出しやそれにあわす事の出来る技術(正確なボールコントロール・パスの質)をトレーニングから追求して行



中央での崩しの一例



サイドでの崩しの一例



く必要があると思われま

これからの研究の展望

今後もさらに世界のトップレベルのサッカーはスピードと緻密さを求められていくと思われま。その中でより速く、より正確に、より一瞬の判断力が必要となってくると考えられまが、そういった選手を育成して行く為に必要な要素を検討し、それを向上させるようなコーチング、トレーニング方法を検討して行きたいと考えていま